

拝啓 横浜市民のあなたへ

市職員の私からの手紙

拝啓 横浜市民のあなたへ。お元気ですか？

明治22年の市制施行から110年余り…。私たちの「おつきあい」もこんなに長く続いたんですね。振り返ると、いろいろありましたね。そんな中、何を今さら、と思われるかもしれませんが、私はあなたに向けて手紙を書きます。これは、市職員の私からあなたへ送る手紙です。そもそも、「横浜市民のあなたへ」と書き出しても、横浜市民は360万人もいて、この白書で描いてきたように、世代も住んでいる地域も家族のかたちも、収入や仕事も、人生観も趣味嗜好も十人十色で、みんなそれぞれ違います。「市民のために」という一般的なスローガンが空虚になってしまうことは、この巨大な自治体で働く私は、実感を持って知っています。

そんな私が、「市民のために」を「空虚」にしないために、最近心がけていることが3つあります。

一つは、今の横浜市の抱えている課題—厳しい財政状況や、巨大すぎるゆえに生み出されている様々な役所の弊害などを包み隠さず、あなたと共有化することです。また、資源の回収、下水道の維持修繕、公園の維持管理、増える救急出動や区役所の窓口業務など、数えあげたらきりのない市民サービスの仕事に私が、どのような姿勢で取り組んでいるのか、一つ一つきちんと説明し、積極的に伝えていきたいと考えています。

なぜならば、あなたは、私にとって「お客様」であるとともに、この巨大都市・横浜を共に経営するパートナーだからです。そのためには、まず情報を共有化し、横浜に対するそれぞれの思いや役割を理解しあわないことには、お互いの信頼関係など築けないと考えています。なので、あなたの声も聴かせてください。対話をしましょう。そして、問題を共有しましょう。

「拝啓 - 横浜市民のあなたへ」は、市役所内で執筆メンバーを公募し、集まったメンバーで手紙の原案を作成。さらに手紙の原案に対するコメントをY-CAN(庁内のイントラネットを活用して職員間の情報共有やコミュニケーションを図るシステム)を通じて広く職員から募集。年齢や役職の異なる30名を超える職員から寄せられたコメントを、執筆メンバーである今年度入庁した新人職員が中心になって取りまとめたものです。

E P I L O G U E



二つ目は、自分が重要だと感じた市民生活の課題や、これはおかし
いと思った業務上の問題については、たとえ市役所という組織の中で
たった一人であったとしても勇気を持って手を挙げ、取り組みを始め
ることです。二つした私達を支えるために、横浜市役所ではアントレプ
レナーシップ制度（ハマリバ収穫祭）など改革の意欲を持つ職員
を市役所の中で孤立させないための事業が始まりました。

最後に、私はいつでも市民生活の「現場」に立って、事業や政策を組
み立て、サービスを提供していきます。あなたの住む地域の事も知ら
ず、あなたの顔も見えず、役所のカウンターの中に引きこもって仕事
をするのではなく、横浜の彩り豊かな風土とコミュニティの中で営ま
れる様々な暮らしの中に入っていき、あなたと共に、この街の課題を
解決する。そんな姿勢を持って行きたい。そう考えています。

G30のように、これからもあなたに、市役所の仕事に協力してもら
う場面、あなた自身が考え実践していく場面が増えていくと思います。
面倒な手間と思われるかもしれませんが、でもそれは、都市経営の負担
を分け合うパートナーということで理解してください。素晴らしいです。
幸いなことにインターネットなどのICTの発展によって、空間と時
間の制約を越えて、人と人がコミュニケーションでできる環境が整い始
めています。遠くない未来、市役所の組織と組織の壁も乗り越えられ、
あなたと私との敷居ももっと低くなり、「協働」など意識しなくても、み
んなが、一人、ひとりの市民の幸せに向けて手を取り合って仕事をす
ることができる自治体に横浜もなることでしょう。

そんな横浜を目指して、一緒に頑張っていきたいと思います。

横浜市民のあなたへ。これからもよろしくお願ひします。

横浜市民のあなたへ、市職員の私から。愛を込めて。

敬具



- (ハマリバ収穫祭)：横浜市の各職場の業務改善事例を集約し、優秀事例の発表と表彰を行うコンテスト。企画・運営を公募の職員が自主的に行うことが特徴。これまで2004年、2005年と2回開催されている。
- (アントレプレナーシップ事業)：職員自らが事業テーマを発案し、事業化に向けて取り組む庁内ベンチャー制度。発案した職員は、テーマの趣旨に賛同したメンバーと共に検討チームで結成。チームで議論した結果を事業案としてまとめ、市長に対してプレゼンテーションを行い、優れた提案には、予算と人員をつけ事業化する。